



博物館だより

Nagano City Museum

第107号



鷲寺経塚出土品

長野市豊野というところ

本号では、2005年(平成17年)に長野市と合併した、旧上水内郡豊野町の文化財を紹介します。文化財をとおして、豊野地域の歴史を概観してみたいと思います。

鷲寺経塚出土品（表紙） 【長野市指定文化財】

1. 鷲寺経塚とその出土品

北土井下遺跡の北、長野市豊野町石字釈迦堂地籍の諏訪社に、鷲寺経塚があります。経塚とは、仏教の経典を埋めた塚のことです。鷲寺経塚の発見は、文政11年（1828）にさかのぼります。当時、本殿改修にあたって地中より氏子が発見したと、同社に伝来する『古器宝物由縁』に記されています。

鷲寺経塚の遺品としては、経筒とこれを納める珠洲焼の壺が伝わります。壺については12世紀末のものと推定されています。一方、経筒については、「筒身部は、口縁より底部に下がるにつれてやや細く、蓋は甲盛りでその縁まで鍛造し、頂に宝珠形の鈕をつけ」という形成から12世紀にさかのぼるものと推定されています（『長野県史』）。

2. 鷲寺経塚の意義

信濃国内で平安時代の終わりまでさかのぼる経塚としては、伊那市西春近の下牧経塚、松本市内田堂平の牛伏寺経塚、千曲市八幡の矢作山経塚、長野市篠ノ井塩崎の長谷寺経塚（仁平元年・1151）、埴科郡坂城町の北日名経塚（保元2年・1157）、千曲市戸倉の経ヶ峰経塚（承安2年・1172）の6か所が知られていますが、鷲寺経塚もこのひとつです。平安時代の経塚として、重要な文化財といえることができます。

鷲寺経塚は「釈迦堂」という地籍に所在しており、この地には何らかの寺院が所在していたことがその地名から想定されます。具体的な寺院名やその活動についてはわかりませんが、太田荘（荘園）に関連した寺院であったと想定されます。なぜなら、経塚近くの北

土井下遺跡が太田荘に関係した官衙遺跡（役所があった場所）と考えると、太田荘でも中心的な組織が置かれ、ここには有力な豪族が居を構えていたと考えられるからです。この豪族が檀那であった寺院と想定されるのです。

また、平安時代の終わりの経塚が千曲川流域に顕著に残されていることから、この時代の遺物との関連性も考えることができるでしょう。

平安時代の終わりころの、北信濃の歴史をこの経塚は語っているのです。

【参考文献】

『長野県史 美術建築資料編 美術工芸』1992年
牛山佳幸「中世太田荘における宗教と文化」『豊野町の歴史』豊野町誌2 2000年



出土品と箱書き

北土井下遺跡出土木簡 【長野市指定文化財】

1. 遺跡の概要

豊野地域の古代史を語る上でまず取り上げなければならないのは、北土井下遺跡でしょう。ここからは、木片に墨書した、木簡と呼ばれる文字資料が出土しています。まずは、遺跡の概要を述べます。

遺跡は長野市豊野町石に所在します（図1）。昭和58年（1983）に発掘調査が行われました。遺構としては弥生時代中期の溝、古代から中世にかけての掘立柱建物、流路などが検出されています（図2）。

B地区で合計21の柱穴が検出され、柱穴は直径20～40センチメートルです。柱穴には規則性が認められ、掘立柱建物1棟が復元可能と想定されています。

A地区南端からは大溝が検出されています（図3）。

2. 木簡について（図4）

木簡は8点出土しています。いずれもA地区からの出土ですが、A地区北側の礫層（黒褐色粘質土層）と同地区南側の大溝（河床埋土）からそれぞれ出土しています。

北側の黒褐色粘質土層からは5点出土しています。この土層は、伴出した白磁片が12世紀末のものであるので、平安時代の終わりころの層と推定されています。5点の木簡のうち、文字が確認できるのは2点です（4号、5号木簡）。この釈文は次のようです。

【4号】 苗中□廿

寸法は(32) × 12 × 1 (mm)

【5号】 経為□□

寸法は(49) × 13 × 3 (mm)

一方、A地区南側の河床埋土からは、3

点の木簡が出土しています（6号から8号）。この河床は、この付近を流れている三念沢の旧河床とも考えられています。なお、8号は判読できませんでしたが、2点についての釈文は次のとおりです。

【6号】 「五月六日（花押）」

寸法は(164) × 38 × 4 (mm)

【7号】 「(梵字) 南×

寸法は(68) × 21 × 3 (mm)

【6号】木簡は月日と花押を記していますが、花押がだれのものかは未詳です。【7号】木簡には梵字が書かれています。梵字はバーン、すなわち金剛界大日如来を表しています。

このほか、出土地点がわからない木簡が2点あります。

【9号】

・「 □□乃本家」

・「 □□ 」

寸法は122 × 19 × 2 (mm)

【10号】

・「 □□□□□」

・「 □□□□□」

寸法は143 × 21 × 4 (mm)

さて、北土井下遺跡の性格についてですが、豊野地域は平安時代の終わりから鎌倉時代になると太田荘の一部となっています。このことから、北土井下遺跡は、太田荘の管理に関わる遺跡であると想定されています。

【参考文献】

笹沢浩ほか『北土井』豊野町教育委員会1984年
笹沢浩「北土井下遺跡」『豊野町の資料 一』豊野町誌5 2001年
山本崇ほか「長野・北土井下遺跡」『木簡研究』第36号 2014年

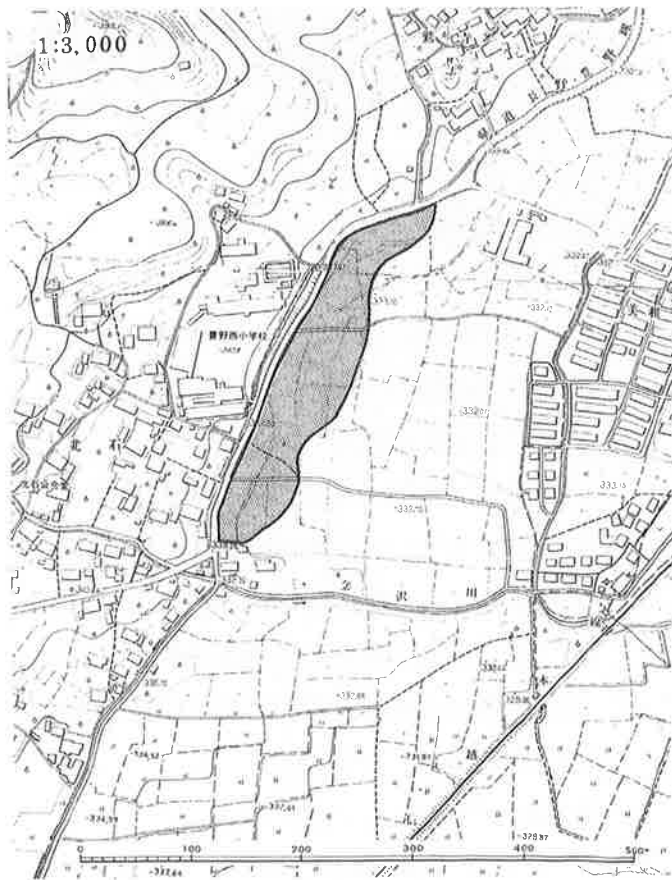


図1 (『北土井』より)

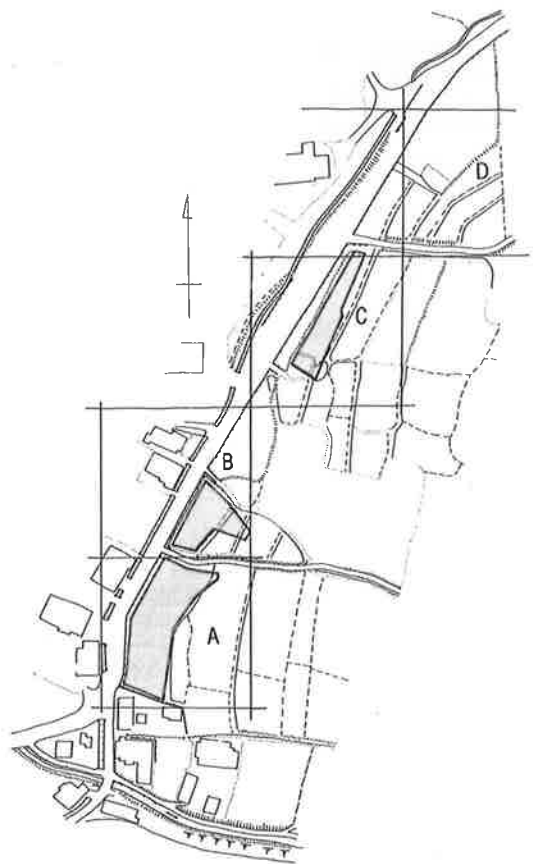


図2 (『豊野町の資料一』より)

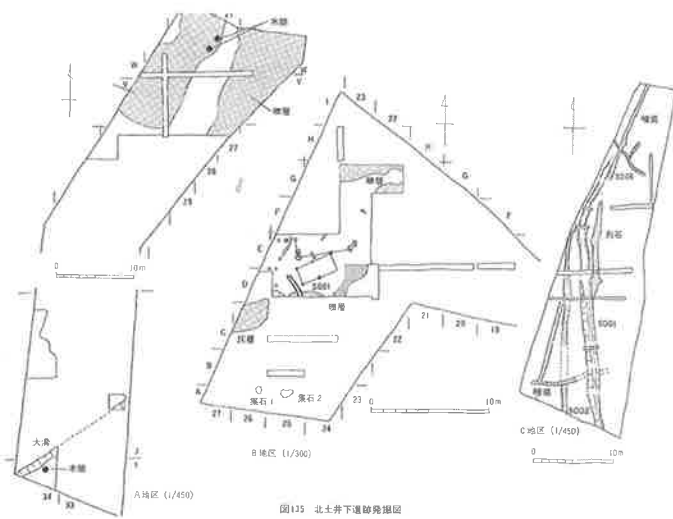


図3 (『豊野町の資料一』より)

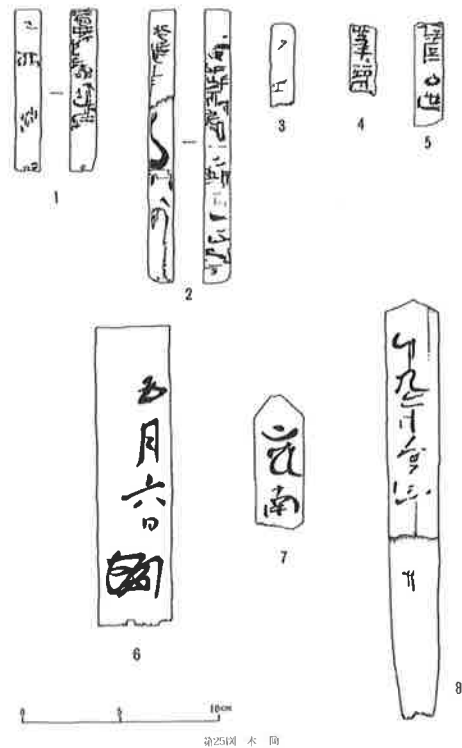
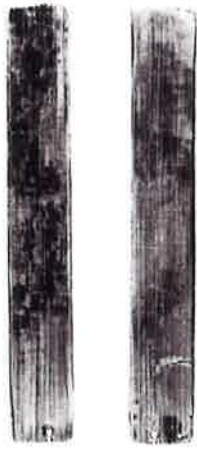
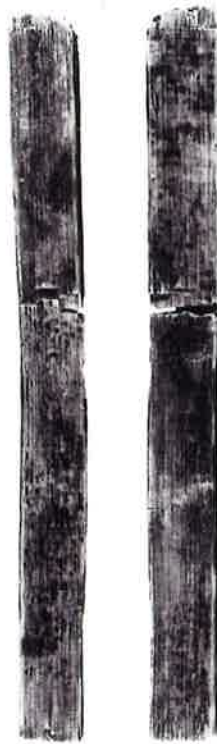


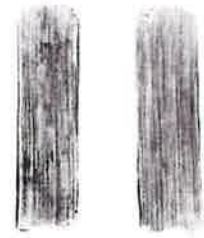
図4 (『北土井』より)



1号木簡



2号木簡



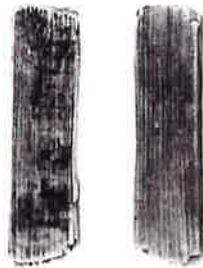
3号木簡

苗中□廿



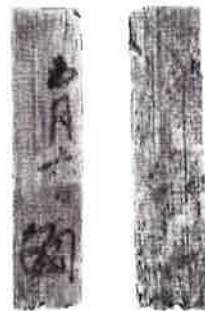
4号木簡

経為□□



5号木簡

五月六日(花押)



6号木簡

南×

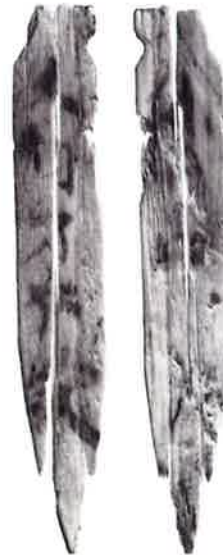


7号木簡



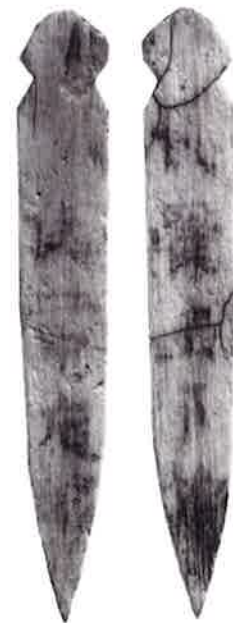
8号木簡

□□乃本家



9号木簡

□□□□□



10号木簡

□□□□□

写真は、奈良文化財研究所提供 釈文は、『木簡研究』による

1. 峯村白齋とは

旧豊野町は、峯村白齋の作品の収集、保存に力を注ぎました。これらの作品は現在、江戸時代の文化遺産として博物館の重要なコレクションとなっています。

さて、峯村白齋とはどのような人物なのでしょう。

峯村白齋は、安永元年(1772)に南石村(長野市豊野町石)に生まれました。幼少のころから俳諧を学んでいます。白齋は句だけでなく絵もよくしました。また、小林一茶との交流がありました。一茶の日記にも白齋のことが記されています。なお、一茶の死後はその坐像を身边に置いていたとも伝えられます。

壮年になると、江戸小石川周辺で剃髪し、松尾芭蕉の奥の細道の跡をたどって奥州や越後、関西を旅します。

弘化4年(1847)、善光寺地震では家が潰れてその下敷きとなったものの、救出されます。嘉永5年(1852)に80歳で没します。

白齋は、南石村を拠点に活動し、弟子も多く抱えます。当時の江戸の俳人番付にも名が出るほど、知名度があったようです。

2. 峯村白齋の俳諧

白齋の俳諧は、句だけでも1500以上確認されています。代表作は「その昔何がこぼれて花の種」です。この句碑は嘉永2年(1849)に石村大日堂に建てられました。

白齋は俳額にその名が多く残ることで知られています。天保3年(1832)には、善光寺への俳額の奉納をはじめとして、飯山や山田温泉の薬師堂、蚊里田八幡宮(長野市若槻東条)などに、多くの俳額を奉納しています。北信地域だけでも、30面の俳額に白齋

の名前が確認できるそうです。

3. 丸山可秋—白齋の継承者—

白齋のもとでは多くの人たちが俳諧を学びました。長野市豊野町石に根付いた俳諧の文化は、時代が下って明治時代に入っても息づくのです。

明治時代に俳諧(俳句)の伝統を継承した代表的な人物としては、丸山可秋(1840-1906)がいます。

可秋は水内郡南郷村(長野市豊野町南郷)に天保11年(1840)に生まれます。南郷小学校の教師、戸長などを勤めた後、医師となります。趣味として俳句をよくしました。明治32年(1899)に小林一茶の俳諧寺の再興を企て、「俳諧寺二世」を継承します。一茶の作品を収集・編纂したことで功績があります。『一茶一代全集』としてまとめますが、その刊行は没後でした。

【参考文献】

金井清敏「暮らしと文化」『豊野町の歴史』豊野町誌2 2000年
長野市立博物館『峯村白齋関係資料』2011年
矢羽勝幸「丸山可秋」『長野県歴史人物大辞典』1989年



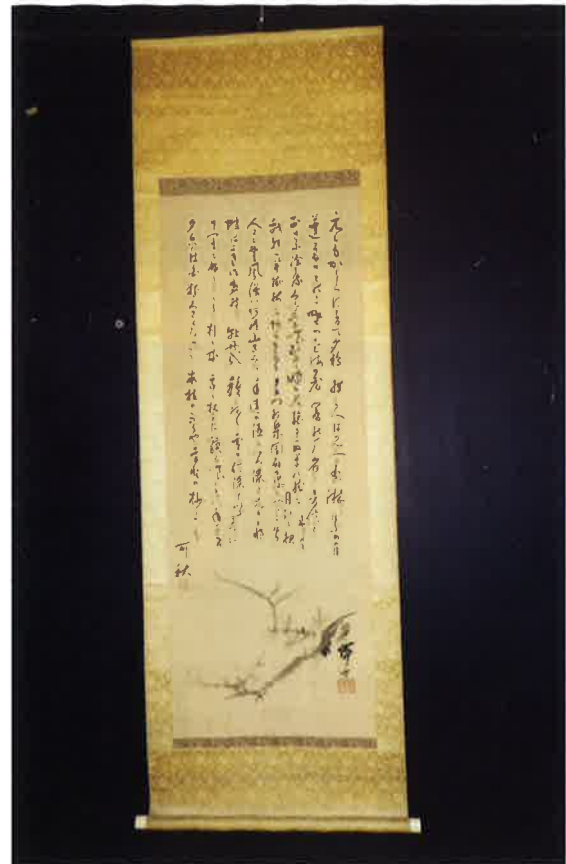
峯村白齋の作品



屏風 峯村白齋書



丸山可秋肖像画



丸山可秋書

博物館だより 第107号

発行日2018年9月28日

長野市立博物館

〒381-2212 長野市小島田町1414

TEL: 026(284)9011

<http://www.city.nagano.nagano.jp/museum>

戸隠地質化石博物館

〒381-4104 長野市戸隠栃原3400

TEL: 026(252)2228

鬼無里ふるさと資料館

〒381-4301 長野市鬼無里1659

TEL: 026(256)3270

信州新町美術館・有島生馬記念館・信州新町化石博物館

〒381-2404 長野市信州新町上条88-3

TEL: 026(262)3500

ミュゼ蔵

〒381-2405 長野市信州新町37-1

TEL: 026(262)2500